

事項六 日葡通商航海条約締結交渉開始方ノ件

二七九 九月三日 内田外務大臣ヨリ
在西国広沢公使宛

日葡通商航海条約締結交渉再開ノ希望ヲ葡国

政府へ申入方訓令ノ件

附記 日葡通商条約改締交渉問題調査

通総機密送第一号

日葡通商航海条約締結ノ件

葡萄牙トノ通商条約關係ニ付テハ如御承知去明治四十三年七月旧通商航海廢棄通告ヲ葡国政府ニ發スルト共ニ新条約締結ノ交渉ヲ開始シ爾來銳意折衝ヲ重ネタル結果葡萄酒ノ税率協定及原産地名保護ノ問題ヲ除クノ外彼我ノ意向略一致ヲ見タル処大正三年一月ニ至リ葡国政府ハ更ニ修正対案ヲ提出シ(大正三年二月二十六日附在葡堀口代理公使來信機条第一号御参看)從來彼我兩國委員ノ間ニ商議決定ヲ了シタル事項ニ再ヒ多大ノ動揺ヲ來シ到底帝國政府ニ於テ承諾シ得ザルモノナリシヲ以テ遂ニ大正三年中懸案ノ儘トシテ談判ヲ中止スルノ止ムナキニ至リタル次第第二有之其ノ後

彼我ノ通商關係ハ漸ヲ追ウテ増進ノ傾アルニ拘ラズ右談判中止ノ結果今尚彼我ノ間ニ条約關係ナク我國ハ葡国ニ於テ比類ナキ高率ナル關稅ヲ課セラルル等通商貿易上ノ不便不利ヲ受ケツツアル次第第二有之候然ルニ今ヤ各国ノ經濟狀態モ漸次安定ニ嚮ハントスル際ナルニ加ヘ今回貴官ノ新任ヲ見旁々本件条約締結交渉ノ再開ニハ恰好ノ機會ト被認候ニ就テハ貴官ハ適當ノ方法ヲ以テ帝國政府ニ於テ右交渉再開ノ希望アルコトヲ葡国政府ニ傳達シ之ニ對スル同國政府ノ意向承知シタキ旨申入レラレ度ク尙帝國政府ニ於テハ從來本件条約締結ノ障害トナレル諸点ニ付葡国政府ニ於テ尙其ノ主張ヲ維持スルニ於テハ妥協点ヲ得ル為メ相當ノ考量ヲ加フル事ヲ辞セサル筈ニ付事宜ニヨリ其ノ旨先方ニ説明セラレ差支無之先方ノ応答振要領ハ電報ヲ以テ御報告相成度若シ葡国政府ニ於テ帝國政府ノ希望ヲ容レ充分誠意ヲ以テ本件交渉再開ヲ応諾スル意向アル節ハ前頭葡国政府最終対案ニ對スル我對案作製ノ上参考書類ト共ニ送付スヘキニ付右御含置ノ上可然御措弁相成度此段申進候也

(附記)

日葡通商条約改締交渉問題調査(通商局總務課調)

一、日葡新通商条約締結行悩事情

(本件交渉ハ在西國帝國公使ト葡国政府トノ間ニ行ハレタリ)

明治三十年一月二十六日調印ノ日葡通商航海条約第十九条ニ基キ帝國政府ハ明治四十三年七月十七日附ヲ以テ右条約ノ廢棄方ヲ通告スルト同時ニ新条約締結方ヲ葡国政府ニ申出デタル処同國政府ハ折返シ新条約締結談判開始方希望セル旨回答越シタルニ付同年八月二十二日新条約案(英文)ヲ彼ニ提出シ又彼ヨリ同年八月二日附ヲ以テ新条約対案(仏文)ヲ送付シ來レリ

右葡国対案ハ仏文ヲ以テ起草セルニ付不取敢正文ニハ英文ヲ採用スル様同政府へ照会シ其ノ以外ニ何等新条約締結ノ交渉ヲ開始スルニ至ラザリシ内同年十月三日葡国ニ於テハ革命ノ陰謀爆發シ同月五日革命派ハ共和政体ヲ宣言シ仮政府ノ樹立ヲ見タリ同仮政府ヨリハ葡国ノ正當ニ為シタル約束、条約、國際現行契約及一般適法ニ負フ各種ノ義務ヲ履行スベキ旨十月九日附ヲ以テ我ニ申越シタルノミナラズ明

六 日葡通商航海条約締結交渉開始方ノ件 二七九

治四十四年二月葡国仮政府ヨリ公文ヲ以テ日葡新条約ノ正文ニハ英文ヲ採用スルコトスルニ同意スベク且速ニ新条約締結ノ商議ヲ開始シタキ希望ノ旨通知シ來リタレドモ葡国トノ利害關係遙ニ密接ナル他列國ニ先チ帝國政府ガ單ニ新条約締結ノ必要上同國政府ヲ承認スルガ如キハ事態ニ於テ適當ナラザルノ感アリ故ニ帝國政府ニ於テハ已ムヲ得ズ暫時形勢ヲ觀望シ正式承認ノ通告ヲ為シタル後適當ノ時機ニ至リ談判ヲ開始スルコトニ決シ明治三十年ノ日葡条約ハ遂ニ明治四十四年七月十七日ヲ以テ消滅シタリ

帝國政府ハ明治四十四年九月十三日葡国共和國承認ノ通告ヲ發シ同年十月七日条約締結方彼ニ申入レタル処翌明治四十五年三月二十七日葡国政府ハ七項ニ渉ル修正提案ヲ為シ他ハ我提案全部ニ同意スヘキ旨回答ニ接シ我ヨリ亦右提案ニ對シ多少ノ修正ヲ加ヘ数次折衝ノ結果大体彼我間ニ合意成立シタルモ唯葡国ハ「ポルト」又ハ「マデイラ」等ノ名称ヲ有スル他國產葡萄酒ノ葡国条約國市場ニ輸入セラルルヲ防遏センカ為既ニ独逸其ノ他ノ國トノ通商条約中ニ一條項ヲ設ケ居レルヲ理由トシテ日葡条約中ニモ右ニ関スル一條項ヲ加ヘンコトヲ同時ニ要求シ來リシカ右ニ付テ本邦ニ

於テハ未ダ何等内国品ノ產地名保護ニ関スル法令存セズ右保護ハ実行上篤ト研究調査ヲ要スルモノアリ英国等ヨリ新条約談判ノ際同問題ヲ提起シ来リタルモ以上ノ理由ヨリ撤廃セシメタル行懸モアレハ葡国ノ本件提案ハ到底同意シ得ザルモノナリキ

右葡萄酒產地名保護ニ関シテハ同年五月十八日以来ノ談判ニ於テ荒川公使ハ葡国外務大臣ト數回意見ヲ交換シタルモ同大臣ニ於テハ本問題ハ同国政府ノ最も重要視スル所ニシテ独逸トノ条約締結ノ際ニ於テモ葡国政府ハ右ニ関スル条項ヲ除キテ之ヲ成立セシムルコト能ハザルヲ公言シタル次第ナレバ日葡条約ノ締結ハ同国政府ノ切ニ希望スル所ナルモ右条項ヲ除外シテ妥協ノ途ヲ見出スコト極メテ困難ナル旨繰返シ説明シ遂ニ同月二十八日ノ会見ニ於テ同大臣ハ右条項ヲ葡国案通り条約中ニ挿入スルト同時ニ別ニ同条ノ適用ニ関スル公文ヲ交換シ例ヘハ本条ノ効力ハ追テ兩國政府協議ノ上適當ナル時機ニ發生セシムヘシトスルカ或ハ又条約施行後一箇年ニ効力ヲ生スヘク若シ日本国政府ニ於テ未ダ其ノ運ニ至ラザルトキハ更ニ其ノ期限ヲ延長スルコトヲ得ト為サバ如何ト提議シ来レリ右ニ對シテハ帝國政府ハ

グルハ葡国政府ノ重要視スル所ナルニ拘ラズ日本トノ条約締結ヲ希望スルカ為殊ニ巴奈馬運河開通後ニ彼我通商上ノ關係一層密接トナル可キヲ思ヒ如何ニモシテ解決ノ途ヲ発見セントシ公文ノ交換ニ由リ効力發生ノ時期ヲ延期シ条約上ノ明文ヲ有名無実ナラシムルカ如キ提議ヲナシタル次第ナルモ而カモ日本政府ニ於テ承諾ヲ肯ゼザル以上到底妥協ノ途ナキ旨ヲ述ベ我對案ニ同意スルノ意向ナカリシ故本件ハ懸案トシテ彼我互ニ考究スルコトトシ談判茲ニ一時中止セラルルニ至レリ(明治四十五年六月)

尚本件葡萄酒產地保護ニ関シテハ大藏、農商務兩大臣ノ意見ヲ徴シタルニ何レモ葡国提案ニ同意セザリシカ故ニ大正二年二月本件提案ヲ撤回セラルルカ又ハ交渉ノ都合ニ依リテハ日仏新条約第十六条ト同一ノ規定ヲ採用スルコトニシテ本件ノ解決ヲ図リタキ旨再応先方ニ交渉シ置キタルニ葡国政府ハ大正三年一月十五日附ヲ以テ更ニ修正對案ヲ提出シ從來彼我兩國委員ノ商議決定シタル事項ニ再ビ多大ノ變更ヲ加ヘ且条約ノ形式ニ就テモ亦一般通商航海ノ事項ト關稅ニ關スル事項トヲ併合シテ一条約トナサンコトヲ希望シ又予テ彼我ノ争点タリシ產地名保護ノ問題ニ関シテハ帝國

「ポルト」及「マデイラ」ノ販路ノ広狭ハ本邦ト歐洲諸国ト同日ノ論ニ非ズ且本邦ニ於テハ未ダ產地名保護ニ関スル何等ノ法規ナク今後充分研究ヲ重ネザルベカラザル問題ナルニ拘ラズ政府ニ於テ先ツ外國品ニ付条約ヲ以テ一定ノ準則ヲ約諾スルカ如キハ内国立法トノ關係上帝國政府ニ於テ承諾ヲ肯ズルコトヲ得ズ又 Appellations Régionales ノ件ハ一九一〇年倫敦ニ於テ開催シタル万国商業會議所大会ニ於テモ遂ニ決定ヲ見ルノ運ニ至ラザリシ頗ル複雑ナル問題ニシテ到底帝國政府ハ先方提案ニ同意スルヲ得ズ然レトモ葡国政府ノ立場ヲ斟酌シ別ニ附屬議定書ヲ作り葡国全權委員ハ「ポルト」及「マデイラ」ノ名称保護ニ関シ新条約談判中日本国全權ニ提議シタルコト、日本国全權委員ハ日本國ニ產地名保護ニ関スル国内法未ダ存セザルヲ以テ將來其ノ制定セラレタル上ハ葡国ト相互的ニ其ノ保護ニ関スル商議ヲ行フニ異議ナキ旨声明シタルコトヲ記載スルニ同意セリ然レトモ右議定書ハ本条約ト共ニ公ニセラルル故ニ葡国政府ハ之ヲ以テ其ノ弁明ノ具ニ供スルヲ得ヘキ此方法以外彼我ノ妥協ヲ計ルノ途ナシト認ムル旨彼ニ申入レタリ右申入ニ對シ葡国ハ產地名保護ニ関スル条項ヲ条約中ニ掲

政府ノ對案ニ基キ日仏新条約第十六条類似ノ条項ヲ加フルコトヲ以テ満足センコトヲ申出デタルモ尚關稅事項ニ關シ彼ノ利益ノミヲ保留セントス(「ポルト」「マデイラ」葡萄酒ノ輸入稅ニ付最低稅率ノ均霑ヲ主張ス)ルカ如キ帝國政府ニ於テ從來ノ方針上到底同意シ難キ点多ク又他ニ良好ナル解決案ナキヲ以テ不得止本件商議ヲ中止シ今日ニ及ビタル次第ナリ尚最終協定案ト葡国新提案トノ比較表別紙^(註)ノ通りナリ

註 別紙比較表記錄ニ存セズ

二、葡国政府提出最終對案ノ要旨

(一)通商航海条約ト特別關稅条約ト併合シテ一条約ト為スコト

(二)第六條ニ代フルニ左ノ三箇条トスルコト

(イ)直接輸入品ノ最惠國待遇ニ關スル規定

葡萄酒ノ關稅率ニ關スル規定

(ロ)直接輸入ノ意義ニ關スル規定

(ハ)輸出入禁止ニ關スル規定

(三)第八條ニ第二項ヲ設ケ外國銀行保險会社カ支店ヲ設クル場合ノ地方官憲ノ許可ニ關シ除外例ヲ設ク

四) 第九条ノ第一項ヲ削除シ第二項ノ代リトシ輸出税ニ関シ最惠国待遇ヲ保障スルニ止ム

五) 第十条及第十四条ニ関シ葡国法律ノ規定及精神ハ葡国政府ヲシテ国民待遇ヲ約スルコトヲ許サズ右ノ趣旨ニテ右兩条ヲ修正スルコトヲ要ス

六) 地理的及人種的事情ニ鑑ミ葡国政府ハ一切ノ通商協約中ニ西国及伯国ニ対シ現在又ハ将来ニ於テ企図セラルヘキ一切ノ商議ニ関シ行動ノ自由ヲ留保スル方針ナルヲ以テ第十八条ヲ其ノ趣旨ニ改ムルヲ要ス

七) 第二十条ニ関シ葡国政府ハ常ニ商事ニ関シ其ノ殖民地ニ条約ノ適用ヲ拡張セサルノ主義ヲ維持シ居レリ故ニ本条「アゾーレス」以下ノ文字ヲ削除セラレンコトヲ望ム

八) 関税条約ニ対スル提案

第一条ハ之ヲ削除スルヲ可トス

第二条ハ修正ヲ要ス

第三条、第四条及第五条ハ削除ヲ要ス

九) 殖民地ノ產物ニ対スル保障並仲裁裁判ニ関シ左ノ二箇条ヲ追加スルコトヲ要ス

一) 日本国ハ葡国殖民地ノ原產品ニシテ葡本国ヨリ再輸出

セラレタル物品ニ対シ葡本国ノ物品ト同様ノ待遇ヲ保障スル旨ノ規定

二) 本条約ノ解釈又ハ適用上ノ問題ニ関シ生スルコトアルヘキ疑義ニシテ兩締約国間ノ協議又ハ外交上ノ手段ニヨリ解決スル能ハサルモノハ仲裁裁判ニ付セラルヘシトノ規定

三) 産地名保護ニ関スル提案

日仏通商条約第十六条ト略同様ナル規定ヲ設ク

三、葡国新提案ノ研究(佐藤庄四郎事務官私見)

第一 通商条約ヲ関税条約ト併合スルコト差支ナカルヘシ元來通商条約ト関税条約ト別個ニ独立セシムル所以ノモノハ将来ノ関税政策ノ改廢ニ応スル為關稅事項ニ付短期廢棄ノ權能ヲ留保セントスルニ在リ然レトモ日葡兩國間ノ通商關係ノ現状ニ鑑ミルトキハ必スシモ兩者ヲ區別シテ規定スルコトヲ固執スルノ要ナカルヘシ況ヤ我国對外条約ニ其ノ例ニ乏シカラサルニ於テオヤ

第二 一) 葡国新提案第六条第一項及第六条(a)ハ葡独通商条約(一九〇八)第五条乃至第七条ニ倣ヒタルモノニシテ同国ノ對外条約ニハ其ノ例多シ(葡瑞典宣言一九〇四)

元來最惠国待遇ノ保障ニ反セサル限り直接輸入ト間接輸入トノ間ニ取扱ノ差別ヲ設ケ得ルコトハ國際間ニ認メラルル所ニシテ畢竟条約ノ保障ハ何レノ場合ニモ最惠国待遇ヲ失ハシメサルニ在リ尤モ日葡間通商ノ現状ニ徴スルトキハ相互ニ直接輸入ナルモノ極メテ僅少ナルモ条約關係ノ開始ト「パナマ」運河ノ開通トニ依リ将来益々兩國ノ直接輸入ヲ増加スルニ至ルヘク又提案第六条(a)第三項ニ依リ船荷証券ヲ有スル貨物ハ直接輸入ト看做サルルヲ以テ實際ノ結果ハ原案ト大差ナカルヘシ加之例ヘハ仏國ノ如キハ直接輸入ノ貨物ニ対シテノミ条約ノ恩典ヲ賦与スルコトトナルヲ以テ之ニ比スレハ提案遙ニ優レリ

提案第六条第二項ハ「ポルト」「マデイラ」ニ対シ「マルサラ」ノ協定税率ニ均霑セシムルニ在ル処(我國ハ現在ニ於テ「セレス」酒(「シェリー」)ニ対シ對外協定ナシ)「ポルト」「マデイラ」ノ兩者ハ「マルサラ」ト全然其ノ釀造方法及ヒ成分ヲ異ニスル別種ノ葡萄酒ナルヲ以テ之ニ対シ「マルサラ」ノ税率ニ均霑セシムルハ税率協定ノ趣旨ニ反スヘシ

但何等カノ對價ヲ以テ葡国提案ヲ容ルルモ一案ナルヘク
六 日葡通商航海条約締結交渉開始方ノ件 二七九

我國ノ現状ニ於テ「ポルト」「マデイラ」ノ兩酒ニ対シ「マルサラ」ノ協定税率ニ均霑セシムルモ國內産業ニ及ホス影響僅少ナルヘク寧ロ將來發展ノ見込アル我對葡貿易ヲ助成スル為有望ナル商品ニ付税率ノ協定ヲ求メ相互ノ形式ニテ先方ノ提案ヲ承認スルノ優レルヲ覺ユ我國ノ對葡輸出品中將來相當見込アル絹製品、陶磁器、漆器、「メリヤス」製品等ニシテ此内ヨリ適當ノモノヲ選ビ税率ノ協定ヲ為スヲ得ヘシ

六) 第六条(b)ハ原案ニ比シ範圍ヲ拡大シタル嫌アレトモ既ニ日仏六、日伊九、日独五等ニ同様ノ規定アリ差支ナカルヘシ

第三 原案第八条ニ第二項ヲ附加スルノ件異議ナシ

第四 原案第九条削除異議ナシ

第二項修正ノ件實質ヨリ云ヘハ我提案ノ広汎ナルニ如カサレトモ若シ先方ニ於テ強テ固執スルニ於テハ葡独条約等ニ先例モアルコト故讓歩シテ差支ナカルヘシ

第五 讓歩シ差支ナカルヘキモ葡国提案ハ其ノ措辭ニ於テ尽ササル所アリ推敲ヲ要ス

沿岸貿易ニ関シ先方提案ニ詳細規定シタルハ原案ト異リ

沿岸貿易ヲ自国法ニ留保セサルカ為ナリ寧ロ我原案ヲ優レリトス

第六 葡国提案ハ簡ニシテ要ヲ得タリ之ヲ容レ差支ナシ

第七 葡国新提案ハ「アゾーレス」及「マカオ」ヲ条約適用ノ範圍外ニ置キ我国船舶ニ対シ最惠国待遇ヲ賦与スルニ止メントスルニ在ル処葡独、葡澳、葡瑞典、葡瑞西、葡塞等ノ諸条約ハ總テ「アゾーレス」ヲ条約ノ適用地域トシ居レルニ鑑ミ之ヲ存置セシムル様主張スルノ要アリ又澳門ニ付テハ葡国カ嘗テ我国ノ提案ヲ承認シタル行懸アレハコレ亦強硬ニ主張スルヲ要ス

第八 第一条削除ノ件 前記第二ノ通り

第二条修正ノ件 日仏第七条同一ノ規定ニシテ差支ナシ

第三条削除ノ件 第二ニ述ヘタル通り先方ノ提案ヲ容レナハ本条ハ不必要ナリ

第四条及第五条削除ノ件

第五条第一項ハ之ヲ存置シ適當ノ箇所ニ挿入スルヲ可トス

第九 本修正案ハ葡独条約第十条ニ倣ヒタルモノナルモ条約ニ加入セサル葡国殖民地ノ産物ニ関シ本邦ニ於テ関稅

ヲ特ニ單數ニ改メタル点ヨリ見ルトキハ故意ニ末項ヲ別条ニ改メタルモノト見ルヲ至当トス

然レトモ右提案ニ依ルモ「各締約國ノ法制之ヲ認ムルトキ云々」ノ文字アル以上ハ之ヲ別条ニ改ムルモ何等我国ヲ拘束スルコトナク先方ノ提案ニ承認ヲ与フルモ格別ノ不都合ナカルヘシ

二八〇 九月六日 内田外務大臣ヨリ
在西国広沢公使宛 (電報)

日葡通商条約締結交渉再開方ニ関シ通報ノ件

第三〇号

葡萄牙トノ通商条約締結交渉再開ノ儀ニ関シ九月三日通總機密第一号ヲ以テ申進シ置キタルニ付本信接到ヲ待チ可然御措弁相成タシ

二八一 十月二十一日 在西国広沢公使ヨリ
内田外務大臣宛 (電報)

葡国首都ニ革命起リ政情渾沌ニ付条約締結交

渉再開ハ急ニ行ハレザルベキ旨報告ノ件

第七四号

(十月二十四日接受)

十月十九日突然「リスボン」ニ革命起リ自由党ノ「アント

六 日葡通商航海条約締結交渉開始方ノ件 二八〇 二八一

上ノ最惠国待遇ヲ賦与スルコトハ無償ニテハ承服シ難シ且本邦品ハ第二十条ニ依リ葡国殖民地ニ於テ最惠国待遇ノ保障アルヲ以テ之ヲ以テ代償ト為スヘキモノニ非ス但シ此ノ点ニ於テ葡独条約ハ本提案ト同一ノ規定ヲ条約ニ載セ別ニ附屬議定書ニ於テ独逸ハ葡国殖民地カ独逸商品ニ対シ最惠国待遇ヲ賦与スル限リ本条ヲ遵守スル義務アル旨ヲ定メタリ

仲裁条項ニ関スル提議ニ付テハ右規定ヲ設クルノ可否ハ相当考慮ヲ要スル問題ナルモ同國トノ通商關係ノ現狀ニ照シ此種規定ヲ置クモ格別ノ弊害ナカルヘク且聯盟規約第十三条ニ於テ右仲裁条項ノ根本主義ヲ是認セル行懸モアリ且又日暹通商条約ニ前例モアルコト故先方提議ヲ承認スルノ外ナカルヘシ但シ右条文ノ措辭ニ付テハ時勢ノ變遷ニ鑑ミ且聯盟規約ノ規定ヲ參酌シ相当ノ修正ヲ為スヘキハ勿論ナリ

第十 大体ニ於テ日仏条約第十六条ニ則リタルモ字句ニ於テ二三ノ修正アリ且日仏条約ト異リ末項ヲ別条トナシタルヲ以テ大ニ其ノ趣旨ヲ變シタリ右ハ先方ノ誤写ナラサルヤノ疑アルモ新提案カ第一項ノ「左記ノ条項」ノ文字

ニオ、グランジエ」(Antonio Granjo) 内閣壊倒シ陸軍大佐「マヌエル、マリア、コエイエ」(Manuel Maria Coes) 氏新内閣ヲ組織シ維也納駐葡國公使「ドクトル、アルベルト、ダ、ヴェイガ、シモエス」(Dr. Albert da Veiga Simoes) 氏外務大臣ニ任ゼラレタリ今回ノ革命ハ共和国護軍司令官ニシテ新内閣總理大臣タル「フエイエ」大佐同軍參謀長「オリヴェラ、シモエス」(Oriveira Simoes) 大佐並新内閣員等ト共謀シ前記護衛軍警察隊並海軍ノ応援ヲ得テ遂行シタルモノニシテ「グランジエ」氏右ノ報ニ接スルヤ直ニ辭表ヲ提出シタルモ同氏並一九一〇年革命ノ首謀者海軍大將「マチャド、サントス」(Machado Santos) 外二名革命黨員ノ為ニ暗殺セラレ前大藏大臣「クニア、レアル」(Cunha Leal) 氏負傷シタリ在馬府葡國公使館ノ發表セル「ノート」ニ依レバ新政府ハ其組織(不明)輿論ノ後援アルトニ依リ挙国内閣ト見做ス事ヲ得可ク且全国無事靜肅ナル趣ナレドモ二十一日当國「ヴィゴ」發ノ電報ニ依レバ在「オポルト」師團長「サウサ、ロサ」(Sauza Rosa) 將軍新政府擁護軍討伐ノ為麾下ノ兵ヲ率ヒテ「リスボン」ニ向ケ出發シタル趣ナレバ葡國ノ政

六 日葡通商航海条約締結交渉開始方ノ件 二八二 二八三

界ハ茲暫クハ渾沌タル有様ニシテ何日平穩ニ歸ス可キヤ計リ知ル可カラズ從テ条約締結交渉再開ノ件ハ急ニ運バザルベシ右念ノ為

二八二 十一月七日 在西南広沢公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

葡国内閣更迭ノ件

第七八号 (十一月九日接受)

葡国内閣復又更迭シ「マイヤ、ピント」(Mata Pinto)氏
十月四日新内閣總理大臣ニ任セラレ「ヴェイガ、シモエス」(Veiga Simoes)氏依然外務大臣タリ

二八三 十一月九日 在西南広沢公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

日葡条約締結交渉再開方ヲ葡国政府ニ申入レ

三〇四

同政府ヨリ同意ノ旨回答アリタル件

第七九号 (十一月十一日接受)

本年九月三日付通総機密第一号ニ関シ当府駐葡国代理公使ヲ介シ同国政府ヘ申入レタル処葡国政府ハ日葡兩國間ノ關係ヲ密接ナラシムルコトニ最重キヲ置クヲ以テ交誼ノ營テ変リタルコトナキ兩國ノ久シク希望シ且葡國ノ最重視スル日葡間ノ外交及經濟關係ノ拡張ヲ確保スベキ通商条約ノ締結ヲ日本政府ニ於テ希望セラルコトヲ承知スルハ最満足トスル所ニ有之通商条約ノ商議ヲ容易ナラシムベキ葡國新聞稅率ハ議會開會後第一着ニ附議セラルベキ問題ノ一ナルヲ以テ近ク其通過ヲ見ルベキモ今ヨリ帝國政府ノ提案ヲ承知スルコトハ葡國政府ノ大ニ欣幸トスル所ニ有之旨外務大臣ヨリ申越タル旨同国代理公使ヨリ回答アリタリ

事項七 極東露領沿海ニ於ケル漁業關係雜件

二八四 二月二十六日 湯地福井県知事ヨリ
内田外務大臣、床次内務大臣、
各府県庁長官宛

浦潮漁業庁長官ノ対邦人反感説ニ関スル漁業

關係者ノ談話報告ノ件

高秘甲第一九八二号

大正十年二月二十六日

福井県知事 湯地 幸平(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

内務大臣 床次 竹二郎殿

神奈川、兵庫、長崎、栃木、大阪、北海道、京都、長野、

福岡、富山、警視庁ノ各府県庁長官殿

浦塩漁業庁長官ノ対邦人反感説ニ関スル件

浦塩漁業庁長官「パンテレフ」ノ執行振等ニ関シ最近浦塩ヨリ帰来シタル漁業關係者ノ談話左記ノ通りニ有之御参考迄ニ及申(通)報候也

左記

七 極東露領沿海ニ於ケル漁業關係雜件 二八四

從來浦塩漁業庁長官トシテ「コンスタンチン、ラウロフ」

(帝政派)在任セシカ同庁内ハ帝政、革命ノ兩派ニ分レ到底融和ノ見込ナキ為同人ハ客年六月頃職ヲ辞シ本邦ニ渡来シ目下東京ニ於テ英露字雜誌「極東」ヲ經營セリ而シテ之カ後任トシテハ曩ニ神奈川県ニ於テ退去処分ヲ受ケ其後上海ニ在リシ「パンテレフ」(革命派)就職セシカ同人ハ本邦退去ヲ命セラレタル關係上邦人ニ好感ヲ有セス会々本邦漁業者カ別紙五ヶ条ノ提議ニ関シ同人ノ手ヲ煩ハス事トナリシヲ以テ同人ハ同提議ヲ殊更ニ重大視シ知多政府ニ移牒セシ為事態頗ル困難トナリ例年日露漁業協約ニ依リ浦塩ニ開催セラルル漁区入札期日ハ本年ハ去ル本月十六、十八日両日ナリシカ前記提議ノ未解決ナル為遂ニ邦人漁業者ヲシテ之ニ参加スルノ機会ヲ逸セシメタリ

本問題ニ関シテハ本邦漁業者間ニ於テモ相結束シテ之ニ対スル露国当局者ノ回答ニ接スル迄ハ浦塩渡航ヲ見合ス事ニ決議セシカ後記五名ノ漁業者ハ此ノ決議ヲ無視シ密ニ前便

三〇五